

くらしナビ 生活 Lifestyle

kurashi@mainichi.co.jp

水を確保し上手に使う



断水が続く中、給水場所に行列する大勢の人たち—宮城県多賀城市の総合体育館で13日午後、手塚耕一郎撮影

東日本大震災

喜らしどころなる？

釜底と大火災に襲われた宮城県気仙沼市。家を失った住民約120人が身を寄せる避難所「紫雲館」では、水の確保に四苦八苦している。

給水車は来る時間もまちまちで、水の供給は十分でない。生命線となっているのは、山のわき水だ。南町2区自治会長の小野寺賢雄さん(72)によると、午前5時から7時までの間に、若手の住民が山頂部に15分ほど車を走らせ、わき水をくみ集めるのが日課となっている。「ここが水の出がいいのか情報交換しながら、いい場所を探している。井戸も巡っている」と小野寺さんは話す。

—2—

集めた水を節水しながら炊事に使い、毎日大人が飲めるのはコップ1杯程度。子供には大人より多い1日約500ミリを割り当てているという。「夜トイレに行くこともなくなりました」と小野寺さんは苦笑する。

水の備えが役に立たない。仙台市内のマンションに住む主婦(41)は水をくんだバケツをベランダに置き、ペットボトル入りの水も大瓶に買い置いていた。24時間、断水を強いられたが、困らなかつた。

自宅は市中心部で水の復旧は早かった。郊外では今もポリ容器を持つた人が給水車に列を作っている。主婦は断水が続いたらもたなかつた。備えの大切さを感じましたと話す。

厚生労働省によると、15日午前0時現在で断水しているのは▽茨城47万戸▽宮城32万戸▽など12県の約140万戸に上る。一方、107万戸が完全に復旧した(14日午後5時現在)。

集居住宅では、水が早く途絶える恐れがある。マンションでは、ポンプでくみ上げた水道水を屋上の水槽にため、容器内に手をうたれて洗いやすいよう口が広いのがよい。また日光を通しバクテリアが繁殖しやすい白でなく、色付きのタンク

「1人1日4リットル保存に適した容器で近くのわき水、井戸を把握して」

「断水が続く中、給水場所に行列する大勢の人たち」

「小さなおはなし」の集いを延期します

「小さなおはなし」の集いを延期します

「断水が続く中、給水場所に行列する大勢の人たち」

「断水が続く中、給水場所に行列する大勢の人たち」

「断水が続く中、給水場所に行列する大勢の人たち」

「断水が続く中、給水場所に行列する大勢の人たち」